

①「向井池周辺整備計画（案）」について

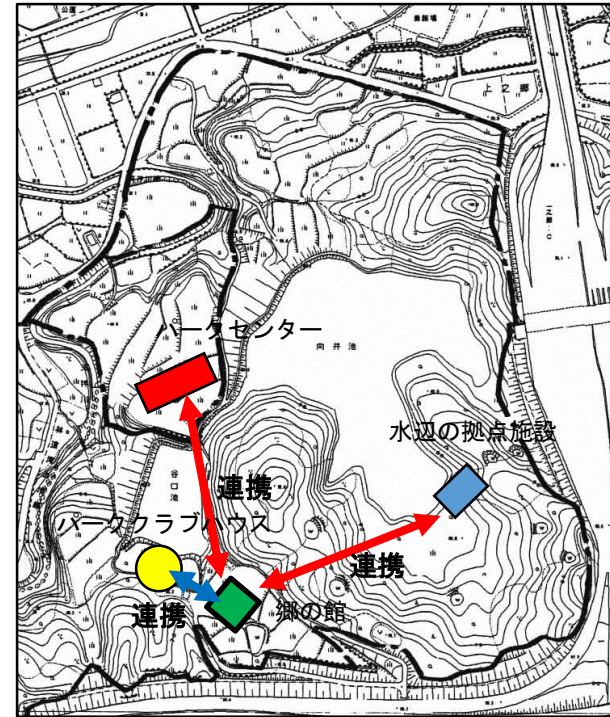
1. 水辺の広場拠点施設の検討

1) 建築規模・施設計画

(1) 公園内の建築施設の役割分担と施設規模

泉佐野丘陵緑地には、パークセンター、郷の館といった公園の活動拠点が有り、今回の向井池水辺のひろば拠点施設とは、相互が連携し機能分担を図り、立地場所に応じた適正な施設機能とプログラムの展開を図る。

[泉佐野丘陵緑地の拠点]



(2) 水辺の拠点施設の施設計画

- ・休憩の他に、池の水際を利用して、生き物観察や環境学習のような多様なプログラムを展開する活動の拠点。
- ・平屋建て四阿風のオープンな空間。
- ・基本設計では、休憩室と倉庫の二室で構成するとしていたが、建物規模を小さくするために、倉庫はトイレと合わせて別棟とする。
- ・トイレはオガクズ仕様のエコトイレとし、男大×1穴、女大×2穴とする。
- ・生き物観察用の資材や環境学習のための教材等を保管する倉庫、約10㎡を設ける。

■拠点施設の役割分担と施設規模

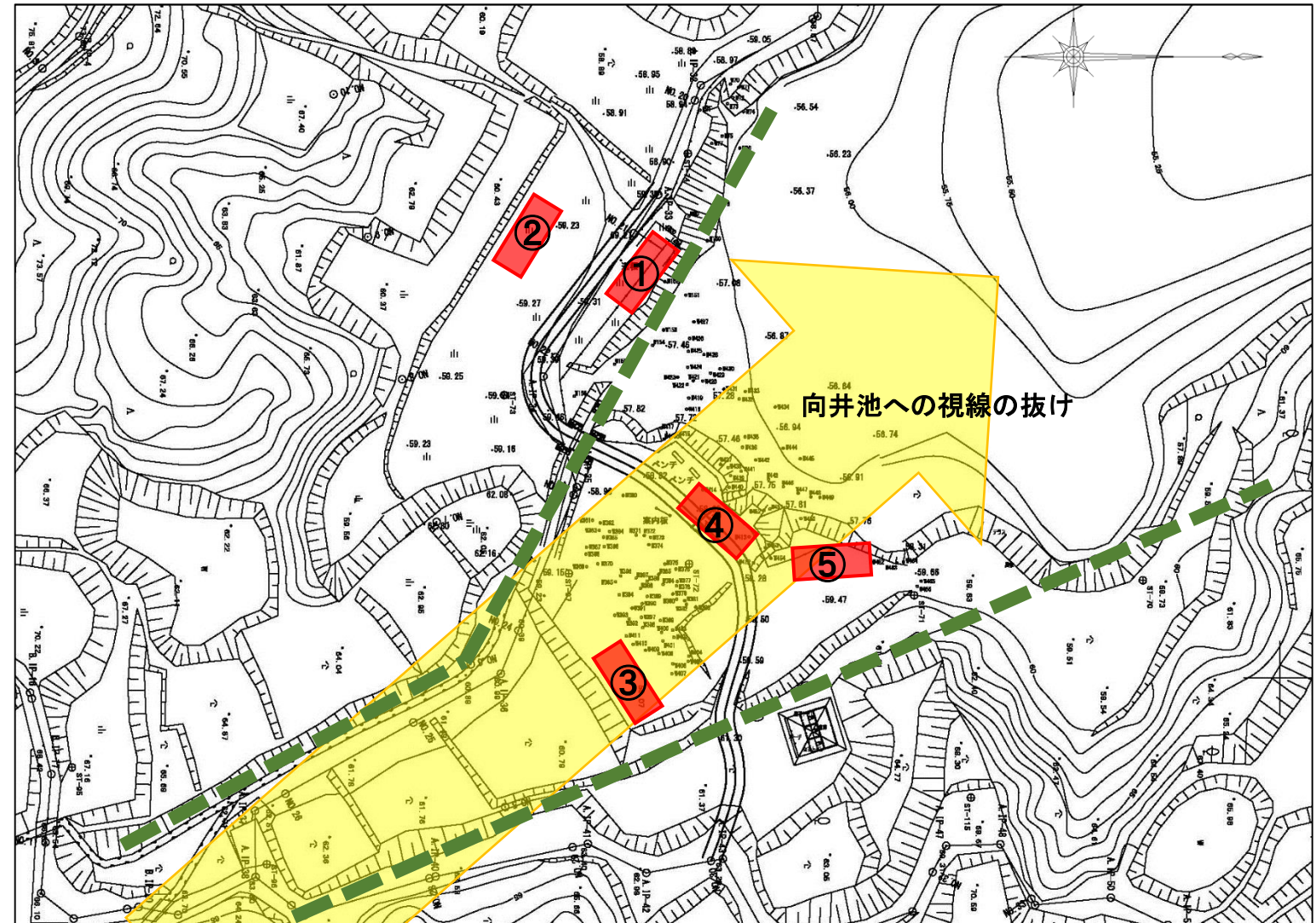
施設名・立地環境・機能	規模	想定利用可能人数	設備
○パークセンター ・公園利用者が集まる農家の建物のような施設 ・インフォメーション、レクチャー機能（管理棟） ・学習プログラム、実習体験等（研修棟）	・延床面積：525㎡ ・休憩施設面積：186㎡	通常利用 約120人 (1.5㎡/人) 最大収容 約180人	上下水道、電気 トイレ（多機能） 空調設備
○郷の館 ・郷の様々な活動の拠点となる村の集会所のような施設 ・郷の活動の体験学習機能 ・農作業、生き物観察、竹細工等	・延床面積：87.847.3㎡ ・休憩施設面積：47.3㎡	通常利用 約45人 (1.0㎡/人) 最大収容 約60人	上下水道、電気 トイレ（多機能）
○向井池水辺の拠点施設 ・水目を主体とした自然体験活動の拠点施設 ・水辺や樹林地での野外活動の拠点 ・周辺空間を利用した多彩なプログラム ・デイキャンプ、岩作り、山野草収集、樹林整備等	・延床面積：約40㎡ ・休憩施設面積：約40㎡	通常利用 約30人 最大収容 約45人	電気（照明） バイオトイレ

2) 配置計画

現地でパーククラブと意見交換を行い、計画敷地として考えられる候補地を複数箇所設定し、敷地状況、利便性、景観、他エリアとの関係性、整備コストなどの立地条件を踏まえて施設配置の適地を検討した。

特に、水辺の広場との連続性を保ちながら谷筋の向井池に向かう景観軸を侵さない場所であることに配慮した。同様に、谷筋に沿った配置となるよう建築の向きに注意するものとした。

[敷地の選定]



◎ 水辺の広場右手の水際を計画敷地とする

- ・上記条件をほぼ満たしており、今後の活動エリアの広がりに対して拠点としての機能を果たしやすい。
- ・現況の水際の竹林を伐採し、水辺に対して開けた建物配置とする。
- ・敷地左手のサクラの現況木を保存するために、樹木の根を避けた建物配置に配慮する。

[計画地現況]



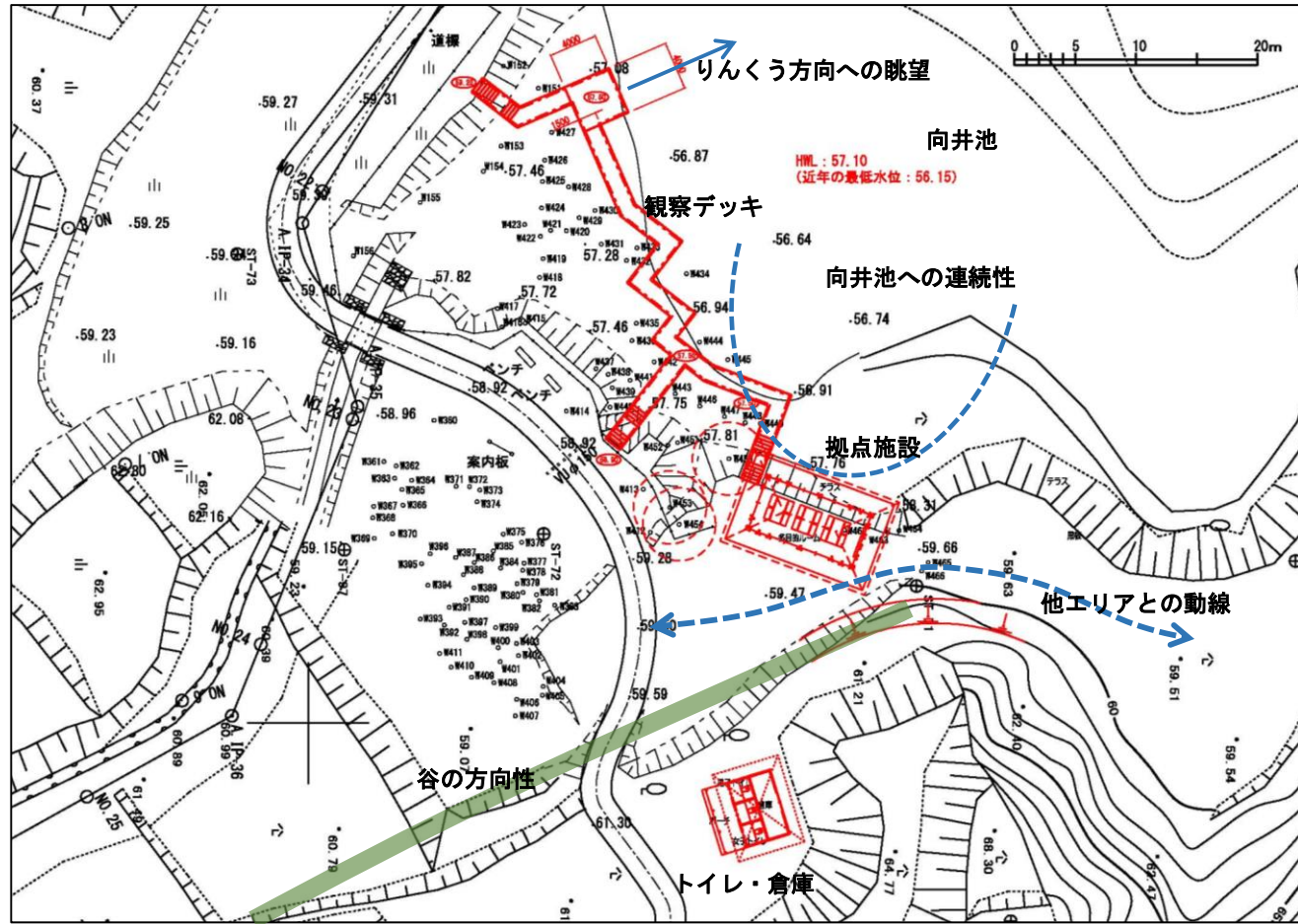
※次頁：敷地条件比較表

[水辺のひろば休憩所の敷地選定比較表]

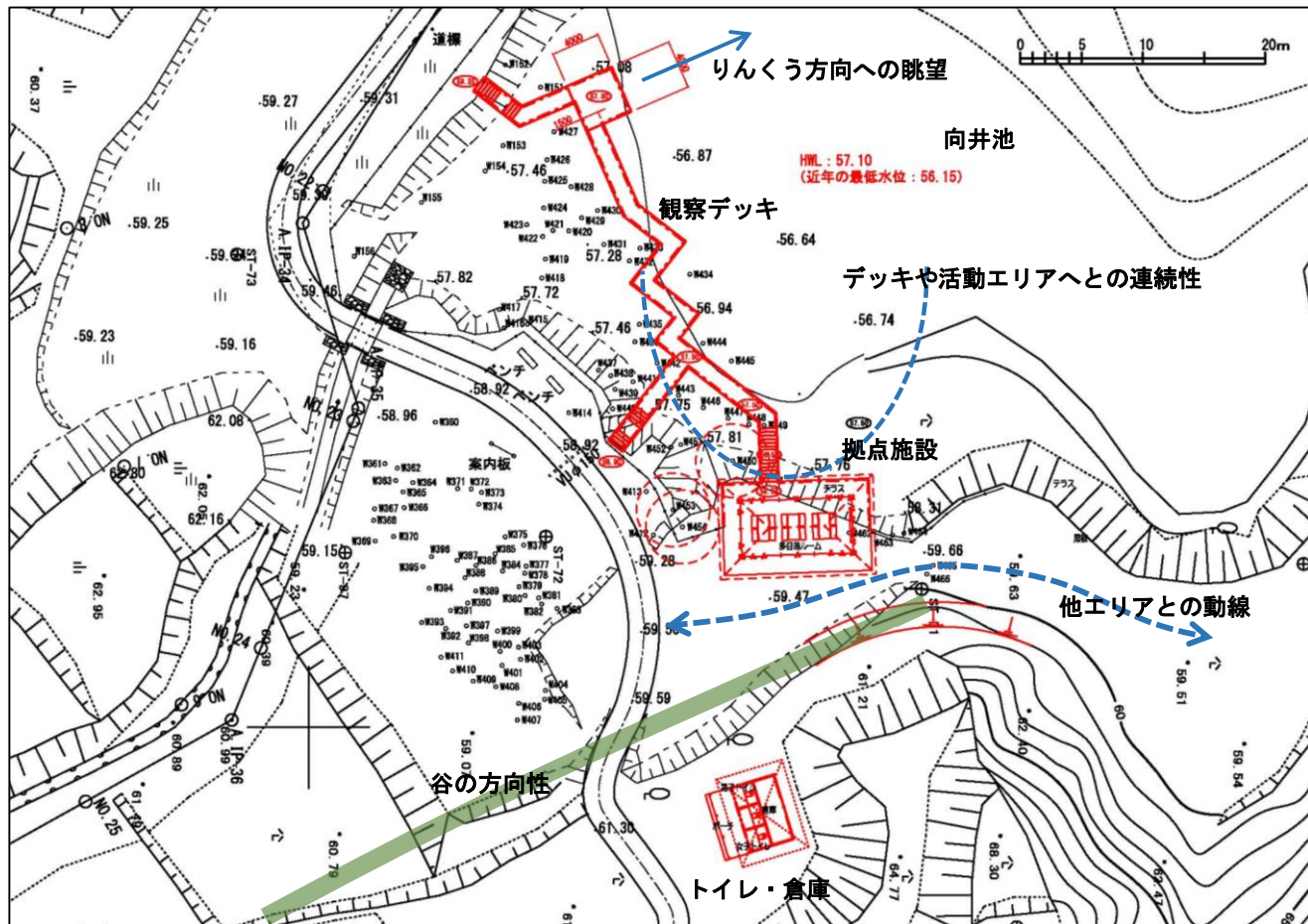
	配置案 ①	配置案 ②	配置案 ③	配置案 ④	配置案 ⑤
立地特性	自然観察の水辺の南、水辺際。向井池に面した岸辺のスペース。郷の小径などの園路からの視認性が高い。	自然観察の水辺の南、陸地側の平地。南側樹林を背景とした広場の中の配置。	ハンノキの疎林広場の中。ハンノキの疎林の広場奥に配置し、間伐するハンノキの樹間から池を望む位置。	自然観察の水辺の東側、水辺近く。水辺のひろば中央の水際に配置する。水面に近く、りんくうタワー方向の眺望ビスタ上にある。	自然観察の水辺の北東、少し高台。水辺のひろばの北側奥の少し高くなった場所、繁茂した竹林の水際法肩部。
敷地の状態	敷地は平らであるが、休憩所の妻側寸法に対するスペースが狭く、デザインの制限となる。 岸側地盤が不安定で護岸の整備が必要。	敷地は平らで十分な余裕があるが、南側に現況樹林があるため日当たりが悪い。山側の雨水が集まる場所であり、湿気が多く、風の吹き溜まりとなる可能性がある。	敷地の地形は平らで、小さな法面に2面が囲まれる形で納まりは良い。但し吹き溜まりとなる可能性がある。また、雨水が集まりやすい場所にある。	敷地には十分な余裕があり良好である。	敷地には十分な余裕があり良好である。水辺のひろばから少し高くなっており水辺との連続性も良い。但し、繁茂した竹林の皆伐が必要である。
	△	×	△	○	○
利便性	水面の近くで、水辺観察活動の拠点としての役割を果たす機能性が高く、池側にも広場側にも開放的な利用ができる。 郷の館やパークセンターと距離的に近く関係性が良い。	水面から離れるため、水辺観察活動の拠点としての機能性は弱くなる。 郷の館やパークセンターと距離的に近く関係性が良い。	水辺のひろばの中核施設としての位置付けが明確となる。 水面から離れるため、水辺観察活動の拠点としての機能性は弱くなる。	水面の近くで、水辺観察活動の拠点としての役割を果たす機能性が高く、池側にも広場側にも開放的な利用ができる。	水面の近くで、水辺観察活動の拠点としての役割を果たす機能性が高く、池側にも広場側にも開放的な利用ができる。
	○	△	△	○	○
景観性	休憩所から池側にも広場側にも広角的な景観が楽しめる。山裾広場やハンノキ疎林広場からの池への眺望を妨げないようなデザインが求められる。	休憩所から池への景観はあまり良くない。 水面から離すことにより、山裾広場やハンノキ疎林広場からの池眺望の障りとならない。	休憩所から池への景観はハンノキの樹間からとなり開放的とは言えない。水辺のひろば南方向からの進入視界に休憩所の屋根が入り、池眺望の障りとなる。	休憩所から池側にも広場側にも広角的な景観が楽しめる。水辺のひろばの谷筋から池方向への視界に休憩所全体が入り、池眺望の障りとなる。	休憩所から池側への眺望なため、竹林の皆伐・除根が必要である。 水辺のひろばの谷筋、ハンノキの疎林広場から池方向への眺望ビスタの障りとはならない。
	△	△	×	×	○
他エリアとの関係性	郷の館やパークセンター方向との連携性は良いが、中地区北エリア方向との関係性は良くない。	郷の館やパークセンター方向との連携性は良いが、中地区北エリア方向との関係性は良くない。	水辺のひろばの中心に位置し、郷の館やパークセンター方向および中地区北エリア方向との関係性は良くも悪くもない。	郷の館やパークセンター方向との連携性は低くなるが、中地区北エリア方向との関係性は高く、活動の起点となり得る場所性である。	郷の館やパークセンター方向との連携性は低くなるが、中地区北エリア方向との関係性は高く、活動の起点となり得る場所性である。
	△	×	△	○	○
整備コスト	護岸改修が必要である。 設備(電気)の整備コストは低い。	敷地は平らで基盤整備はあまり必要ない。 設備(電気)の整備コストは低い。	敷地は平らで基盤整備はあまり必要ない。 設備(電気)の整備コストは若干高くなる。	敷地は平らで基盤整備はあまり必要ない。 設備(電気)の整備コストは若干高くなる。	敷地は平らで基盤整備はあまり必要ないが、現況の竹林伐採が必要である。 設備(電気)の整備コストは若干高くなる。。
	△	○	○	○	△
総合評価	○	△	×	×	◎

[水辺の拠点施設配置計画図]

・向井池への眺望



・観察デッキとの連続性



3) 建築意匠

(1) 泉佐野丘陵緑地の建築意匠

- ・泉佐野丘陵緑地のパークセンターと郷の館の建物意匠について整理する。

①パークセンター

木造平屋で管理棟は瓦屋根、研修棟は金属屋根。軒が深く、軒下の利用空間を有する。外壁は板張りと白壁を基本とする。室内の柱は角材の組柱で、白木を使用している。

※農家の建物のような雰囲気を持ち、細い白木の柱を組み合わせることで、人の手が掛かっているきめ細かさを感じさせている。



②郷の館

木造平屋で休憩室とトイレ、倉庫で構成される。パークセンターと同じく軒が深く、外壁は板張りを基本とする。柱は太い角材が四隅に配され、ガラス戸を折りたたむと全面が開放可能となる。

※村の集会所のような位置づけで、太い柱ががっしりとした印象を与える。パークセンターよりも無骨な感じであるが、板張りで前面開放できる休憩室は多様な活動に対応できる。外壁の色は茶系で、パークセンターよりも若干赤みがかっている。



③向井池水辺の拠点施設

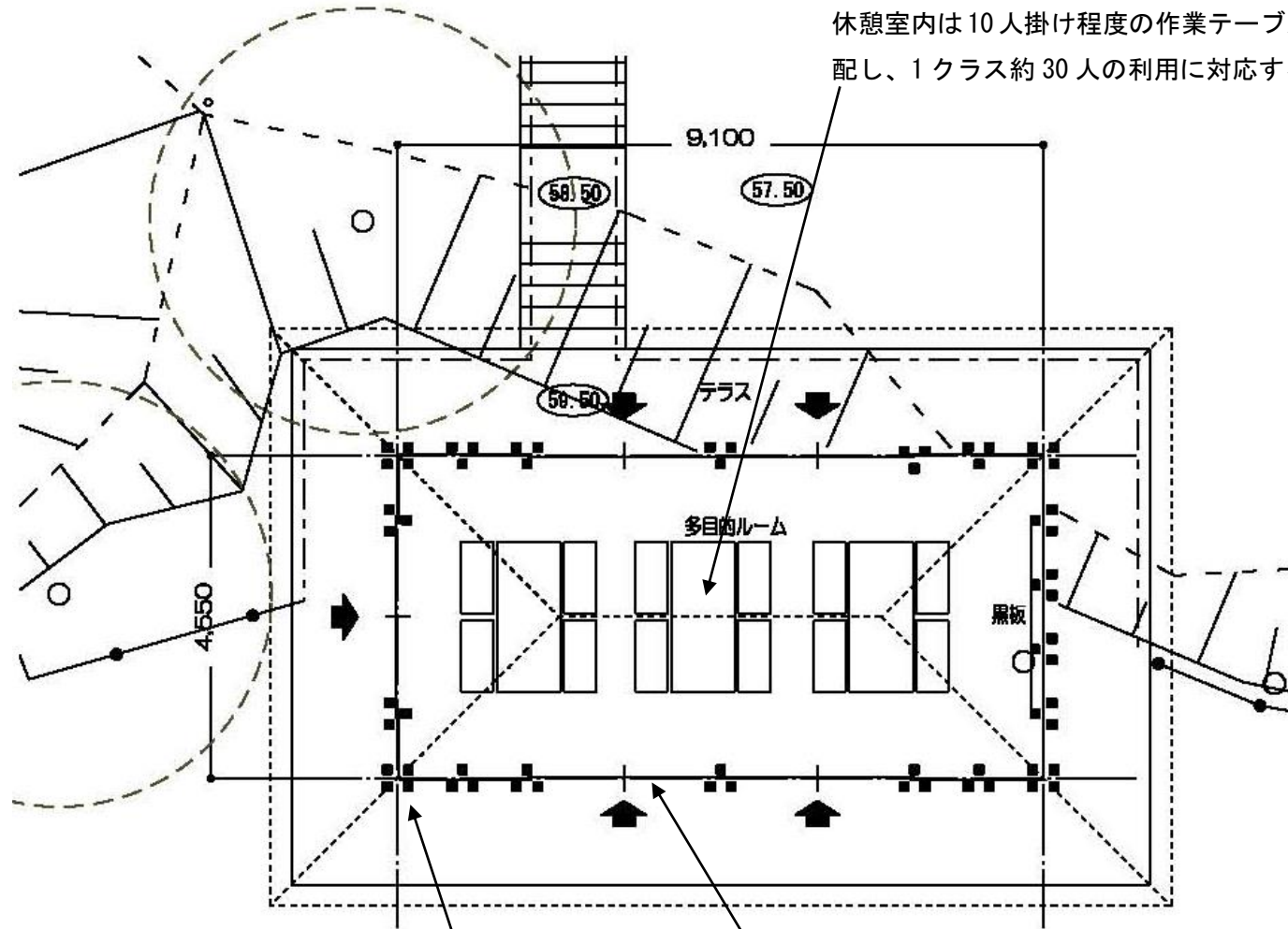
※水辺の立地を活かした意匠

- ・建物の外壁はできる限り開放できる構造とし、屋外との連続性を持たせ向井池への眺望を担保する。
- ・水際から水面に向かってテラスを張り出し、向井池との一体感を感じさせる。

※既存建物の意匠デザインとの整合

- ・角材を組み合わせた柱のデザイン、外壁の板張り、緩やかな勾配の金属屋根、茶系を基本とした外壁色など、既存建物の建築意匠との整合を図りつつ、立地場所（水辺）と建物機能（観察拠点）に見合った建築デザインとする。

休憩室内は10人掛け程度の作業テーブルを3組配し、1クラス約30人の利用に対応する。

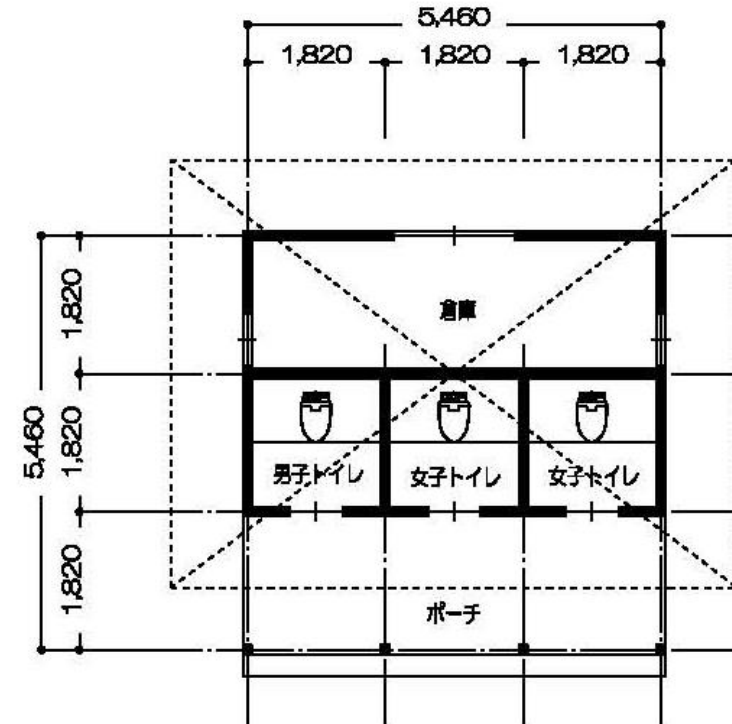


平面図 1:100

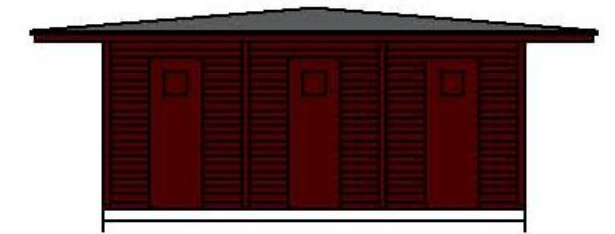
建物の柱は角材の組木柱とし、パークセンターとの意匠整合を図る。

側面はガラス戸等により大きく開口し、外部と一体的な利用が可能となる。

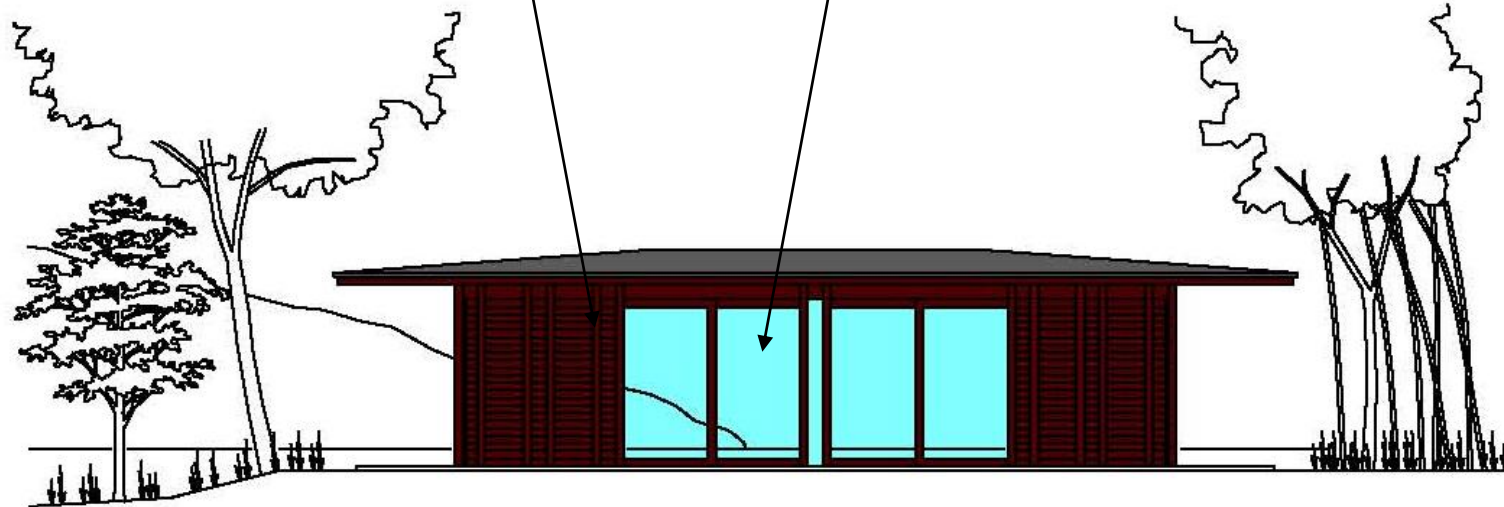
[トイレ・倉庫]



平面図 1:100



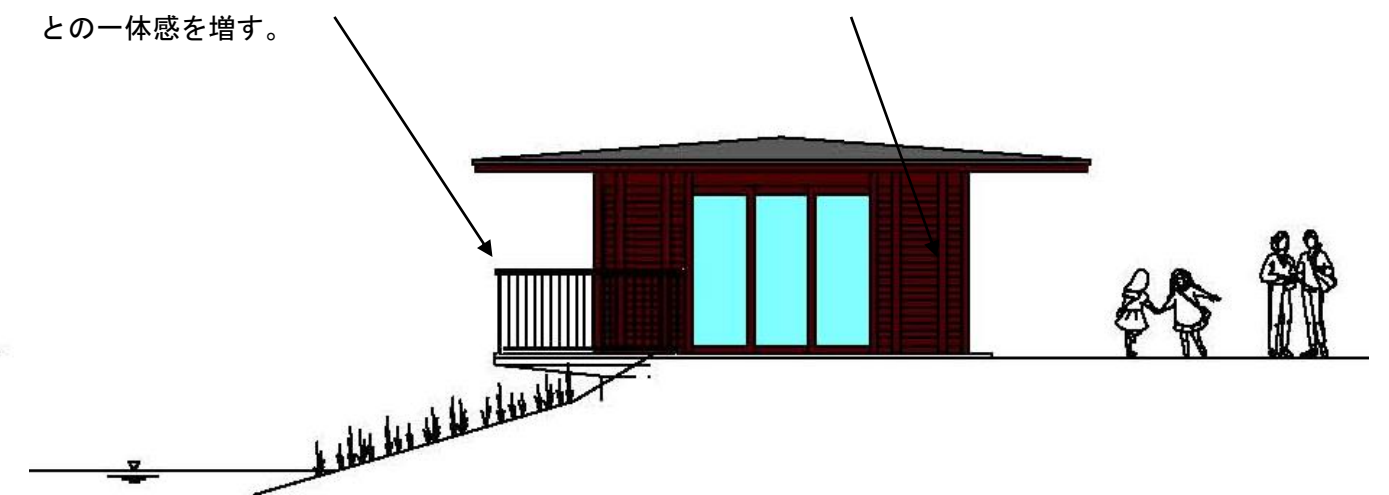
正面図) 1:100



正面図(園路側) 1:100

向井池側は水面に向かってテラスが張り出す構造とし、水辺との一体感を増す。

ガラス戸が収まる壁面は板張りとし、他の建物との意匠的な整合性を図る。



側面図 1:100

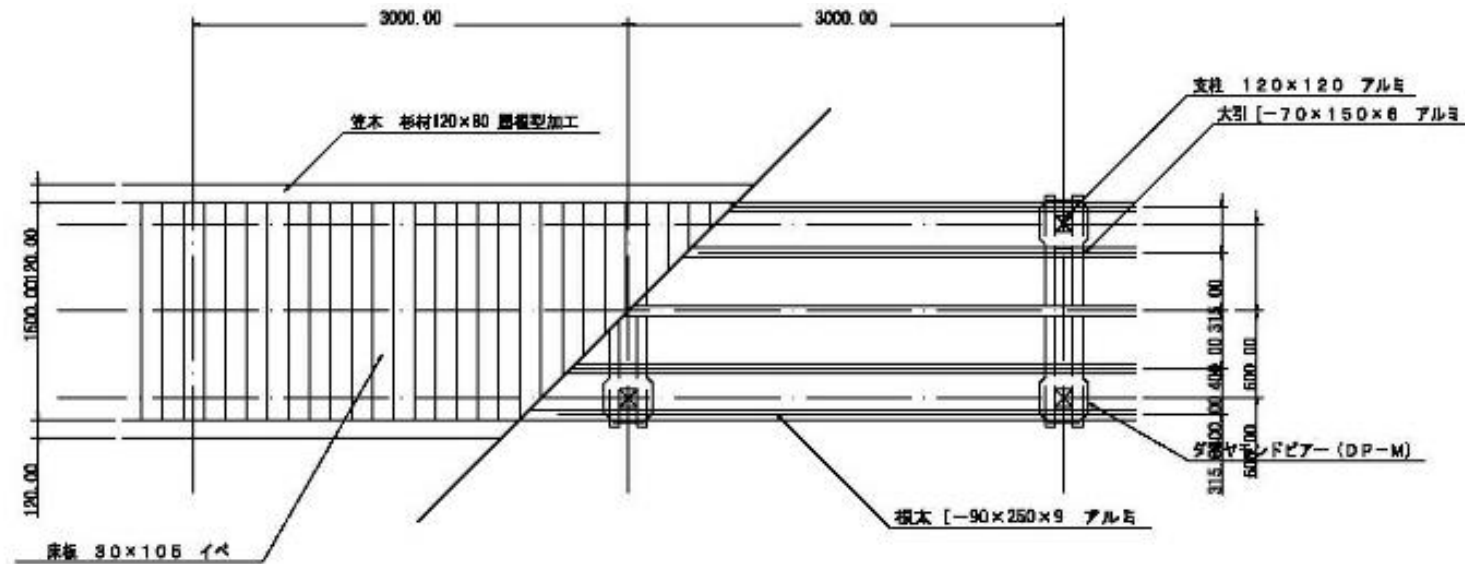


2. 向井池水辺のひろば主要施設の検討

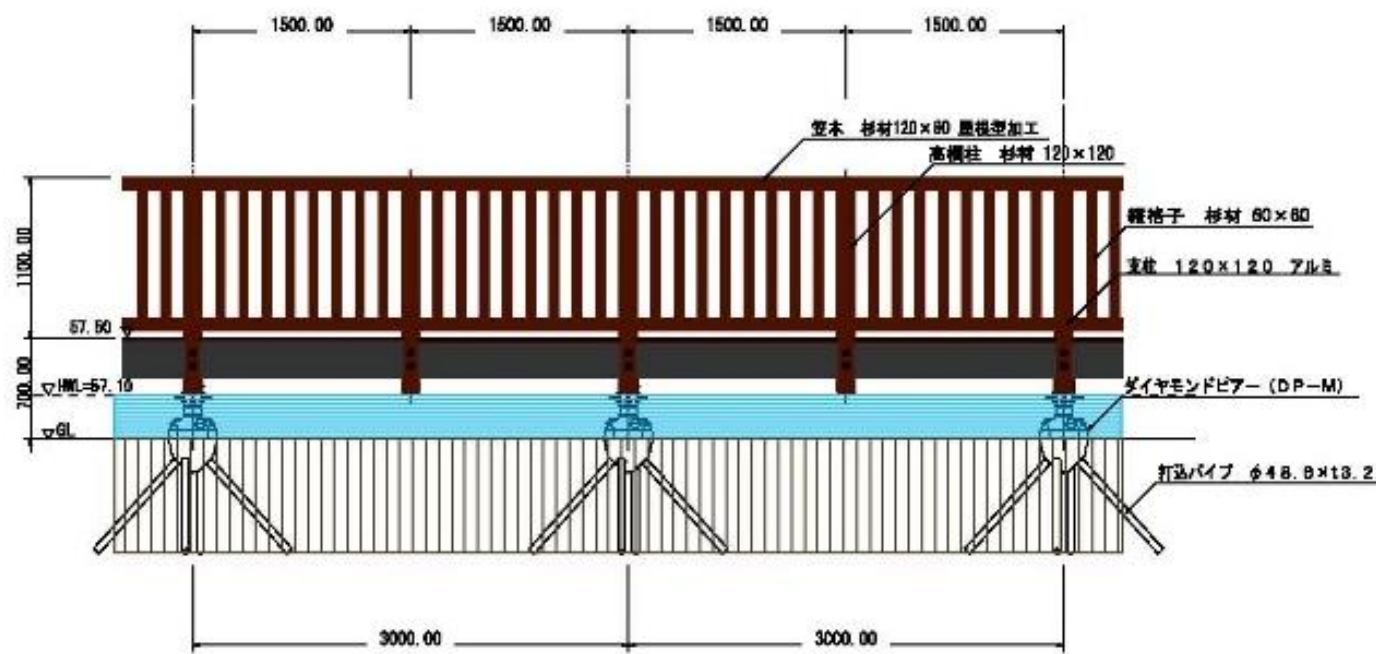
[水辺のデッキ：A案]

- ・地耐力の無い場所なので、基礎はダイヤモンドピア工法を用いる。
- ・柱、大引、根太などの構造材はアルミを用いる。
- ・床は耐久性のある外材（イペ）、高覧柱、格子、笠木などは杉材とする。

※材質的には本公園の建物などと意匠統一が図れる。景観的には高覧が遮蔽した印象を与える可能性がある。

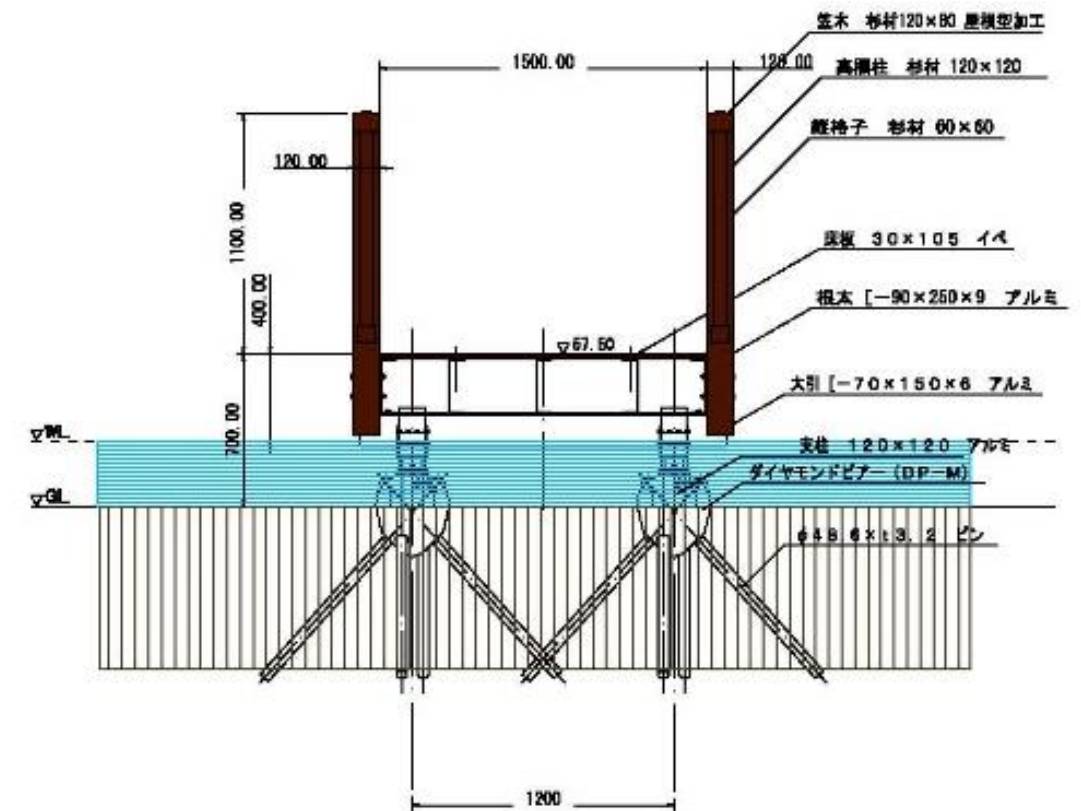


平面図 1:30



側面図 1:30

[水辺のデッキA案：フォトモンタージュ]



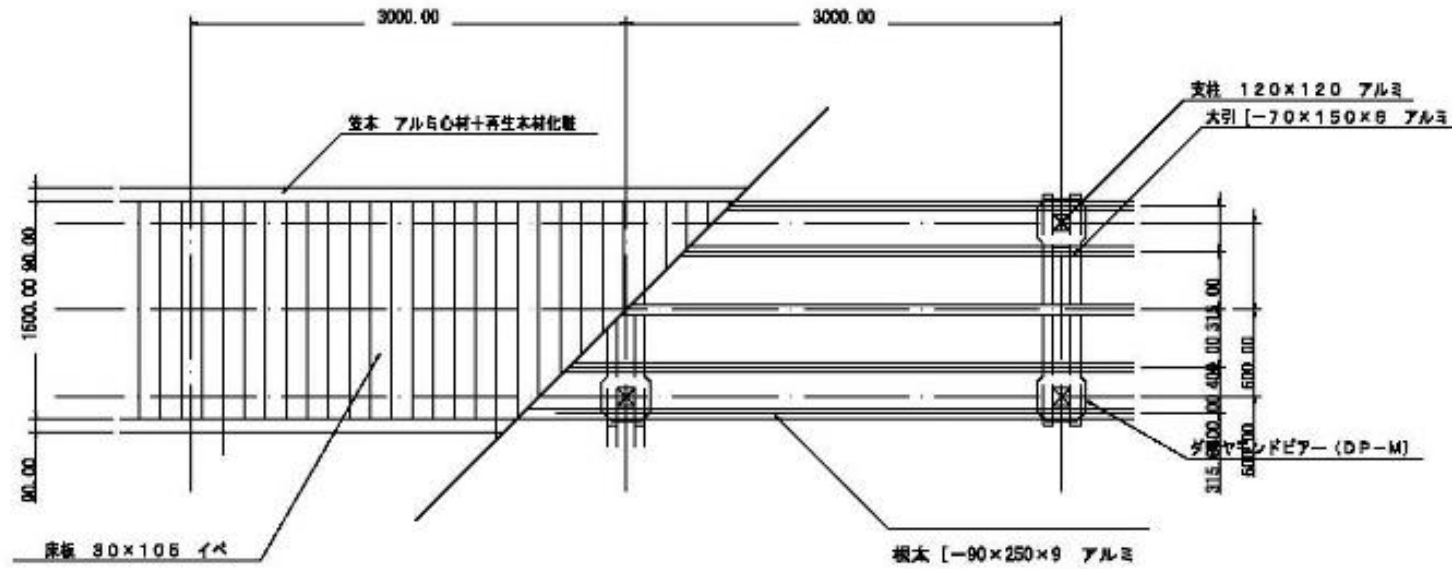
断面図 1:20

[水辺のデッキ：B案]

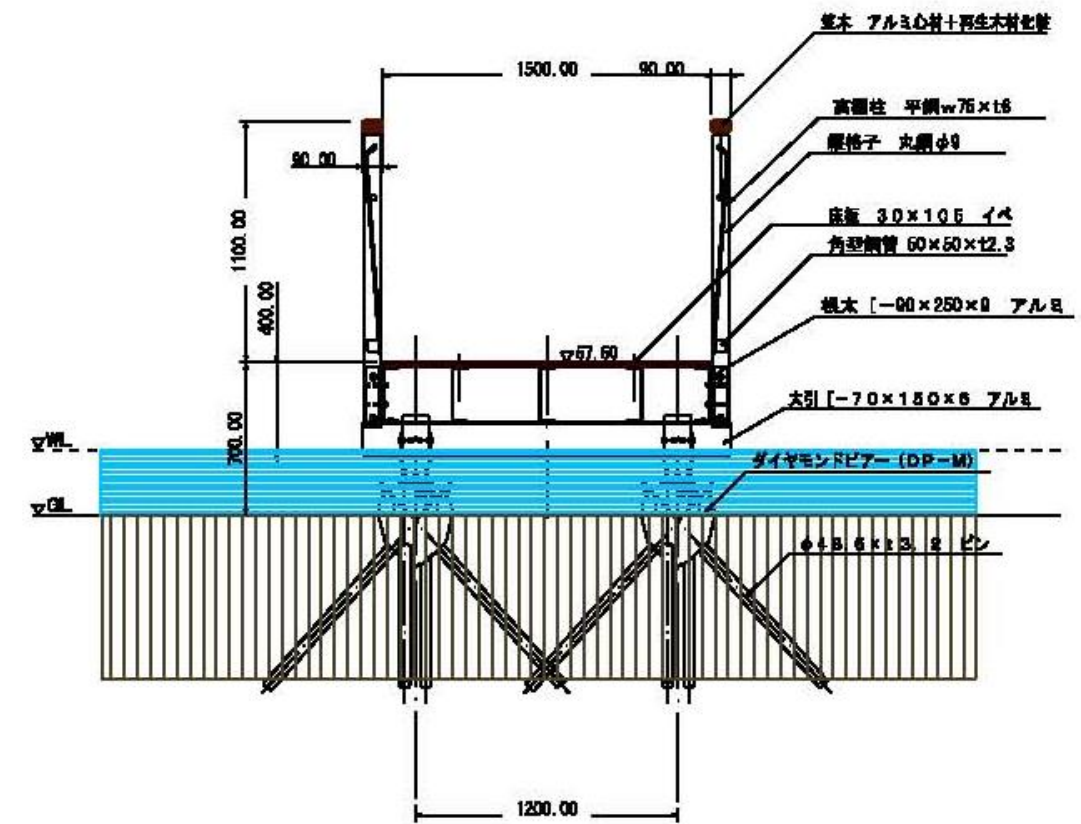
- ・地耐力の無い場所なので、基礎はダイヤモンドピア工法を用いる。
- ・柱、大引、根太などの構造材はアルミを用いる。
- ・床は耐久性のある外材（イペ）、高覧柱、格子、笠木などは杉材とする。

※材質的には本公園の建物などと意匠統一が図れる。景観的には高覧が遮蔽した印象を与える可能性がある。

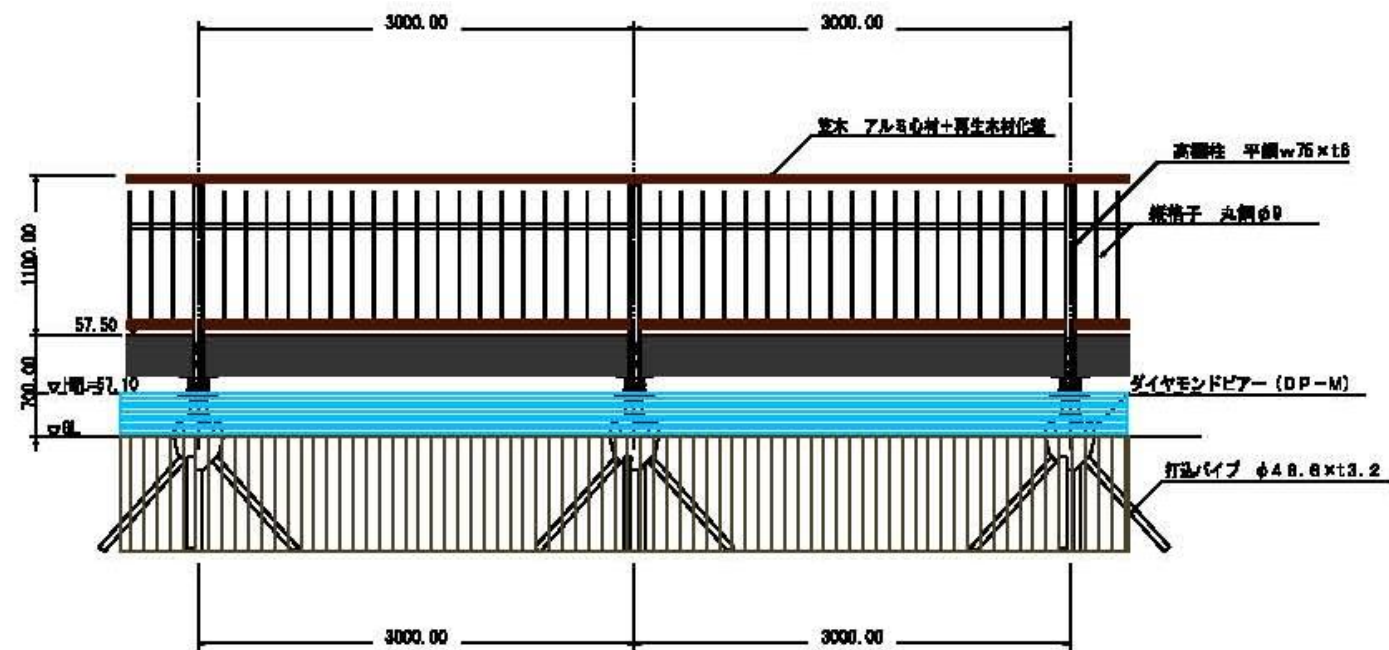
[水辺のデッキB案：フォトモンタージュ]



平面図 1:30



断面図 1:20



側面図 1:30

■ 欄干は全て木製



■ 欄干の縦格子は丸鋼（シルバー系色）

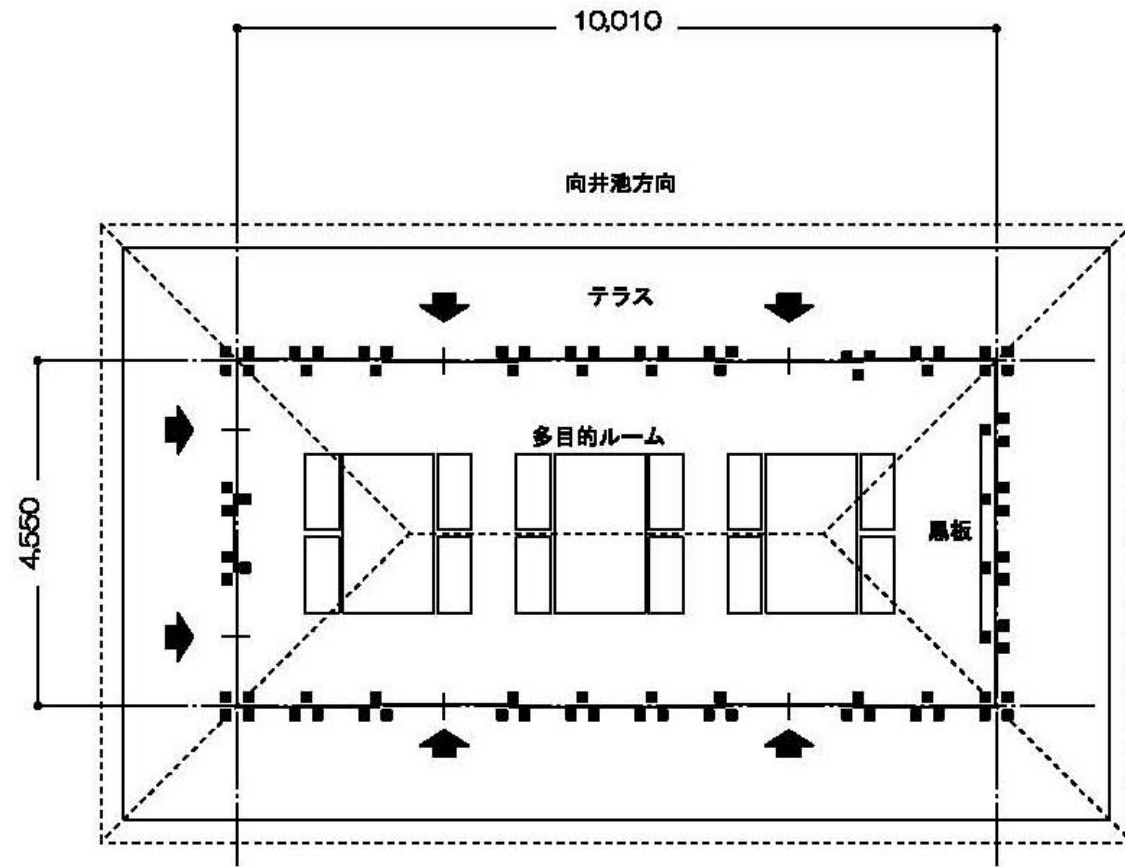


■ 欄干の縦格子は丸鋼（黒系色）

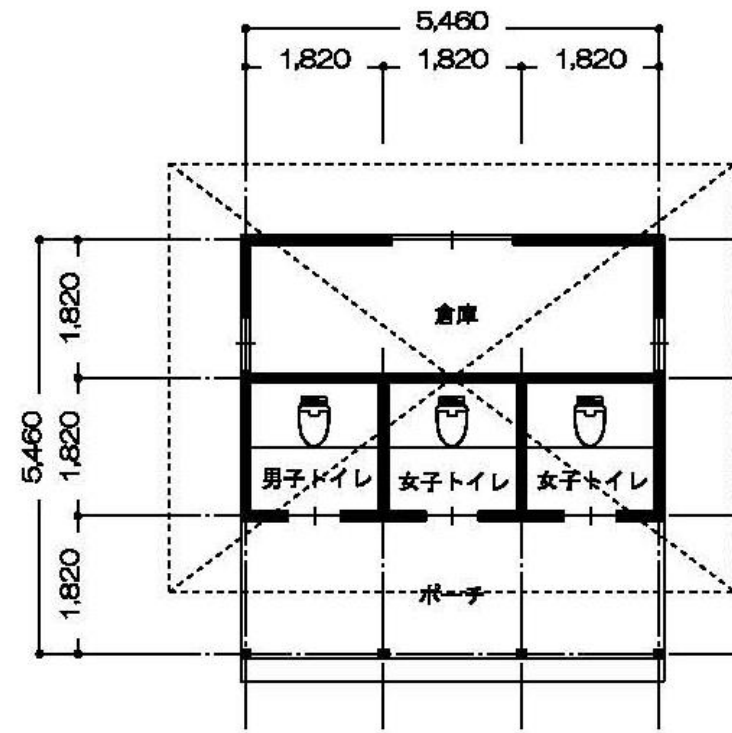


■ 欄干の縦格子は丸鋼（茶系色）

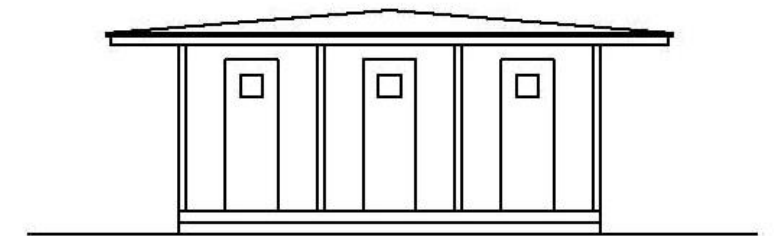




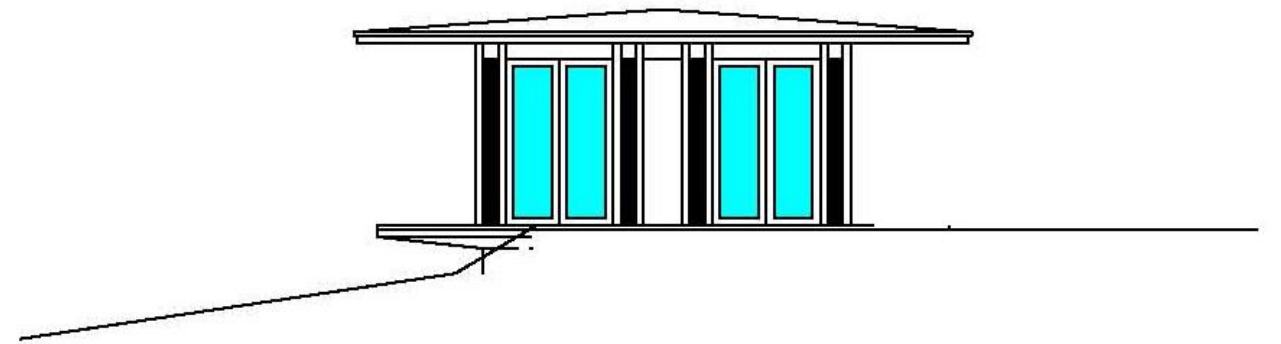
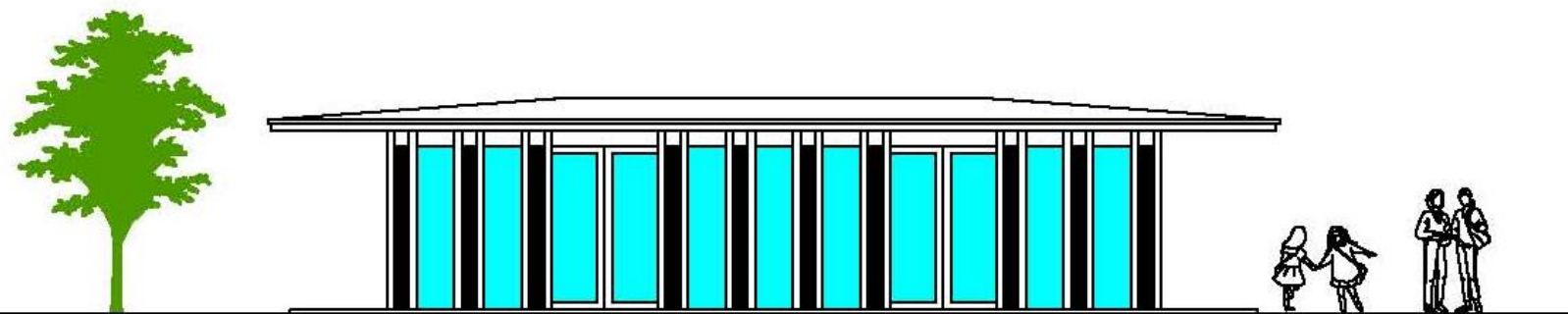
拠点施設 平面図 SCALE 1:100



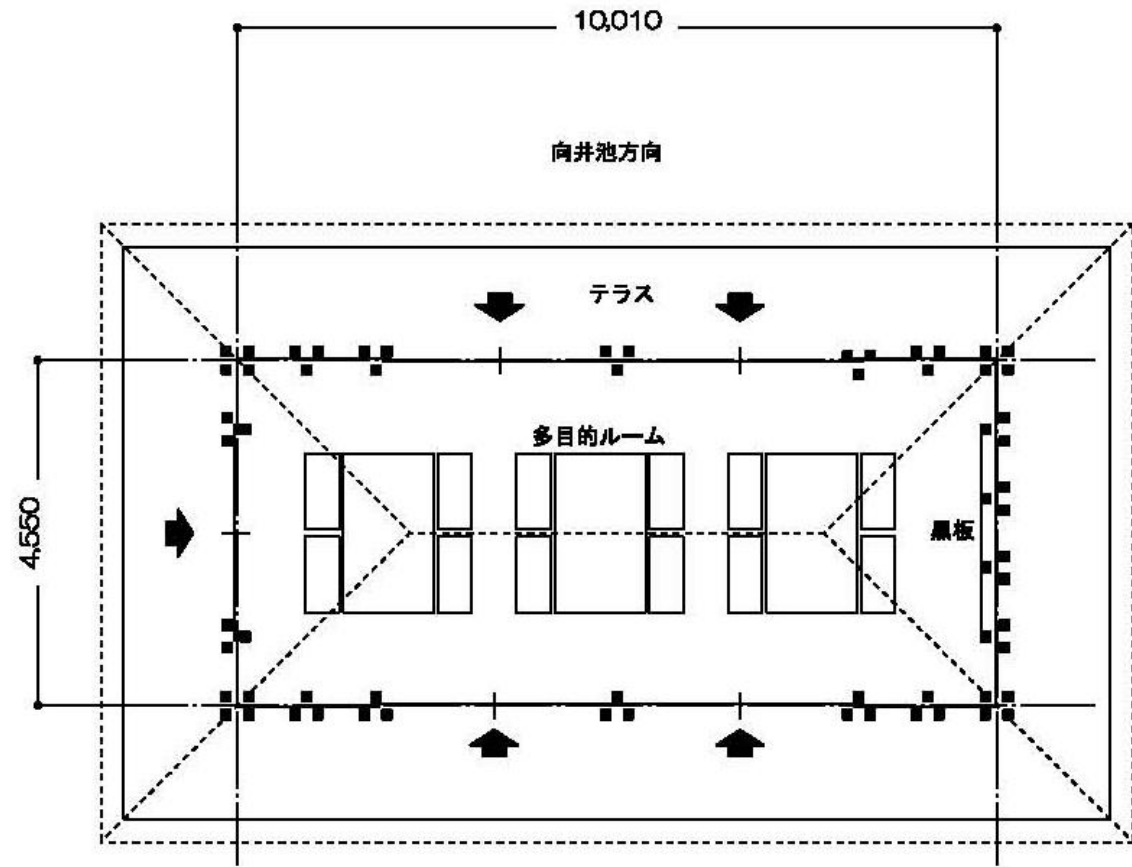
トイレ・倉庫 平面図 SCALE 1:100



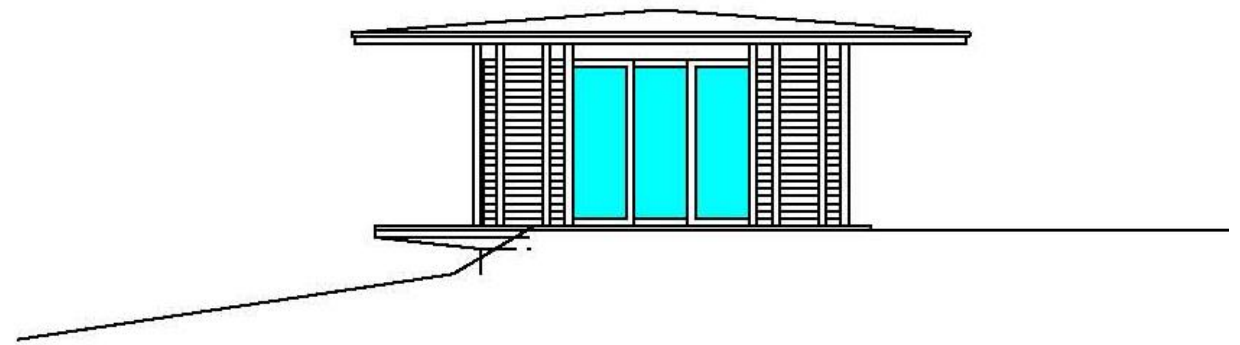
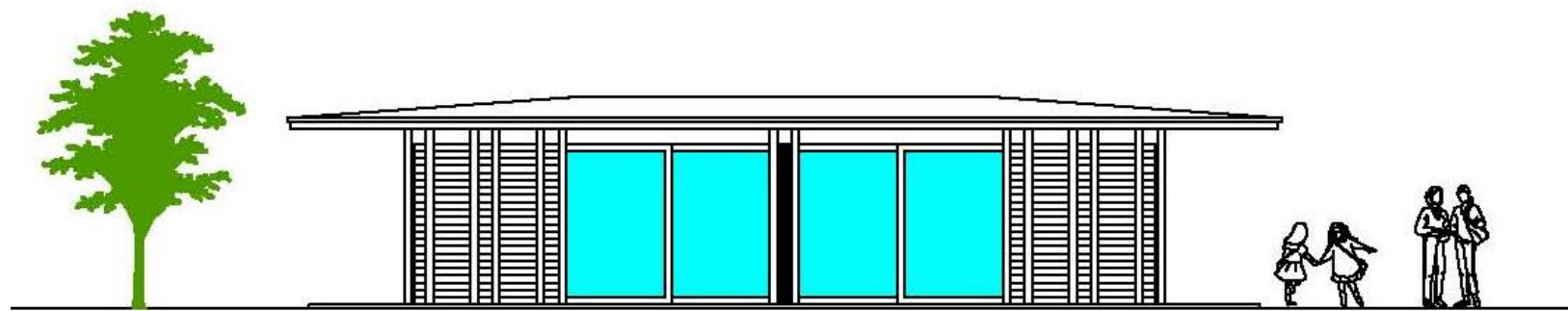
トイレ・倉庫 立面図 SCALE 1:100



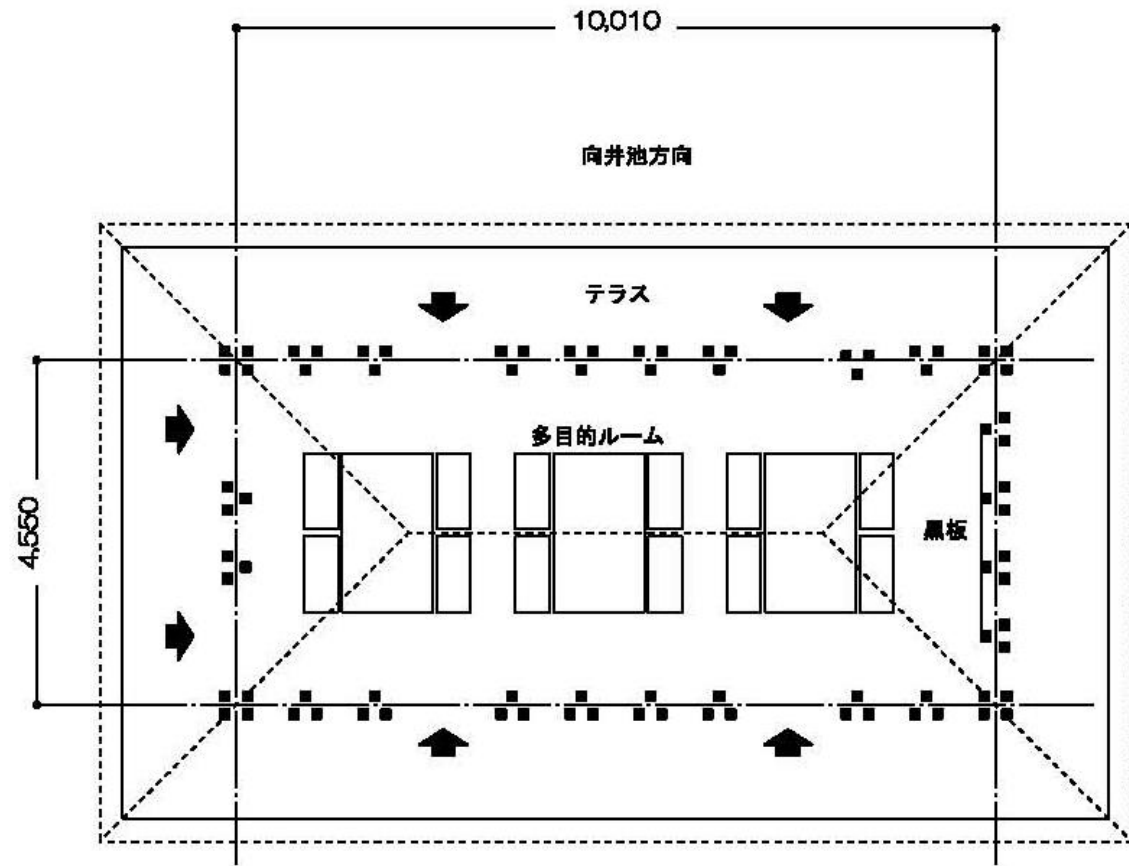
拠点施設 立面図 SCALE 1:100



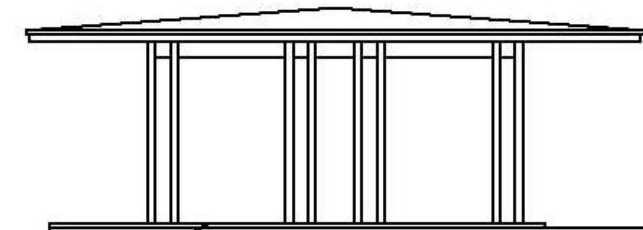
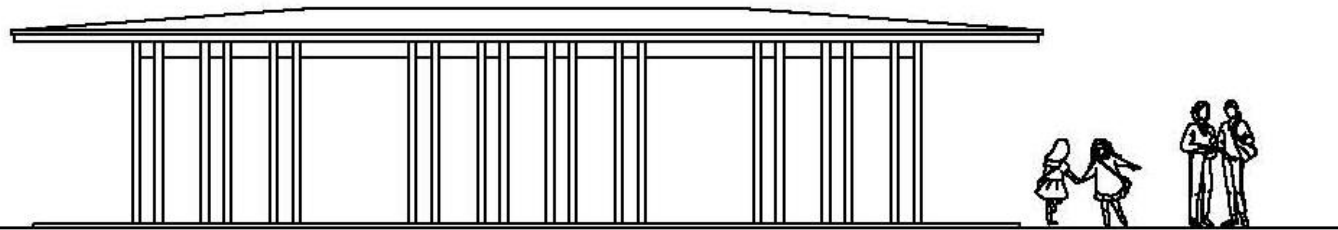
拠点施設 平面図 SCALE 1:100



拠点施設 立面図 SCALE 1:100



拠点施設 平面図 SCALE 1:100



拠点施設 立面図 SCALE 1:100

3. 樹林整備に関する検討

1) 樹林整備の基本方針

- ・泉佐野丘陵緑地の現況林は、放置された竹林が広い面積を占めており、荒れた竹林内には切り倒されて放置された竹が散乱している区域もある。
- ・樹林整備の方針としては、自然観察などの野外活動に利用する樹林エリアを想定し、その樹林に対して樹林整備を行うものとする。
- ・樹林整備の内容および整備の分担は、倒木搬出除去、密生した樹林の下草刈り等の基盤づくりとなる作業は公共工事において行い、樹林間伐や軽度の下草刈り等はパーククラブや公園プログラムとの協働において行うものとする。
- ・企業協働の森の現況雑木林については、美しい雑木林の育成を目標として参画される企業と共に将来整備するものとする。

※標中の作業人工、活動日数目安などは想定数量であり、パーククラブの活動実績や活動計画に基づくものではありません。

[樹林整備方針一覧表]

樹林整備計画												
整備地 記号	整備イメージ	整備内容	整備分担	エリア 面積 (㎡)	樹木伐採・撤去		数量	単位	作業人工 (半日当り作業量)	人工数量(人)	活動日数目安 (5人/日想定)	備考
					単位面積当り 数量(本/25㎡)	数量						
A	美しい竹林	竹林間伐 倒竹搬出	プログラム	400	8	128	本	10.0	12.8	2.6	調査エリアNo①	
			プログラム		5	80	本					5.0
B	美しい竹林	下刈り(中低木)	公共工事	650		650	㎡				調査エリアNo②	
C	活動場所として利用 できる竹林	竹林間伐 下刈り(中低木)	公共工事 公共工事	750		750	㎡				調査エリアNo③	
D	明るいハンノキの疎 林	樹木間伐	プログラム	600	全部で間伐10本	10	本	1.0	10.0	2.0		
E	水辺の竹林伐採	竹の全伐	公共工事	60		60	㎡					
F	園路沿いの雑木林	侵入竹の伐採 林床整備	公共工事 公共工事	200		200	㎡				調査エリアNo④	
G 第1期	多様な野外活動に利 用できる疎林広場	樹木間伐 下刈り(中低木) 段差部の樹木間伐	プログラム	900	全部で間伐10本	10	本	1.0	10.0	2.0	調査エリアNo⑤	
			プログラム		900	㎡	100.0	9.0	1.8			
			プログラム		全部で間伐50本	30	本	1.0	30.0	6.0		
G 第2期		樹木間伐 下刈り(中低木) 段差部の樹木間伐	プログラム	1,000	全部で間伐10本	10	本	1.0	10.0	2.0		
			公共工事		1,000	㎡						
			プログラム		全部で間伐50本	30	本	1.0	30.0	6.0		
G 第3期		樹木間伐 下刈り(中低木) 段差部の樹木間伐 倒竹等搬出	プログラム	1,800	全部で間伐10本	10	本	1.0	10.0	2.0		
			公共工事									
			公共工事									
H	谷筋の草地	下刈り(草木)	公共工事	300		300	㎡					
I	入江の湿地	倒木搬出 ゴミ掃除	公共工事 公共工事	650		650	㎡					
J	見通しの確保	下刈り(中低木)	公共工事	60		60	㎡					
K	園路沿いの竹林	竹林間伐 倒竹搬出	公共工事	3,000	16	1,920	本				調査エリアNo⑥⑩	
			公共工事		17	2,040	本					
L	入江の湿地	倒木搬出 ゴミ掃除	公共工事 公共工事	560		560	㎡					
M	美しい雑木林	侵入竹の伐採 倒竹搬出 下刈り(中低木)	公共工事	1,900	2	152	本				調査エリアNo⑧	
			公共工事		2	152	本					
			公共工事		8	608	本					
合計									137.8	27.6		

